

## 「関大・交渉学」で展開する高大連携・地域連携 未来社会に向けて持続可能性を協働！



### DATA

#### ■主な連携先・メンバー

佐治倶楽部事務局 出町慎氏/佐治倶楽部事務局 植地惇氏/  
兵庫県立氷上西高等学校 山口文和氏・岩本義裕氏  
兵庫県全域の中高で兵庫県社会奉仕クラブ「インターアクトクラブ」所属19校  
(総勢140名)

#### ■活動地域

兵庫県丹波市青垣町

#### ■活動期間

2019年度

#### ■活動資金

国際ロータリー第2680地区事業費

### 活動の目的

- 1 自分達の住む未来の兵庫県を考えよう！  
(未来社会のシナリオ・プランニング)
- 2 未来の自分・未来社会の同じ地域・他の地域の人たちとの「巡り会い」

### 連携にいたる経緯

2014年から毎年丹波市青垣町の氷上西高校と関大生と教員が交渉学を基盤としてアクティブ・ラーニングによる地方創生ワークショップを展開してきた。2019年度「インターアクトクラブ」年次大会の幹事校を氷上西高校が担当し、本学と協働することとなった。

### 活動内容

関大・交渉学では、交渉学を通した高大連携プロジェクトを2014年より展開している。例えば、この事例で取り上げる氷上西高校との高大連携では、氷上西高校の掲げるミッション『「地方創生」と関大・交渉学の融合による未来社会を生きる様々なステークホルダーがWin-Winな信頼関係でつながった未来社会』をテーマに持続可能性についてこれまで考えてきた。そこで「地域社会の未来、地方創生」の領域で、SDGsをテーマとした交渉学のワークショップを行うこととなり、次の段階を踏んで研修を進めた。(1)チームごとに、現状分析PMI(都市&地方)をおこない、それぞれの地域で何をSDGsで持続していくかを考える。(2)20年後の未来社会を生きる人たちが(都市部に生きる人たちと地方に生きる人たちが)Win-Winな関係でつながる社会をめざして、未来の自分自身と都市部に生きる人たちが、地方に生きる人たちに対して、Pay It Forwardできることをチームで考え、その成果を参加者全体で共有した。その中で優秀な企画については表彰を行った。



### 活動の成果

- 1 県内の都市部・地方に散在する高校生が集い、未来社会について考える機会を得たこと
- 2 自分達が住むコミュニティについて、良さ・改善点を客観的に見る機会を得たこと
- 3 「今の自分達」と「未来社会に住む自分達」とのWin-Winの関係を思案できたこと

### 今後の課題・目標

- 1 本研修では「安心・安全な社会」の持続可能性を現状維持に留まってしまったこと
- 2 単発イベントとしてのワークショップではなく、年数回の開催頻度の担保
- 3 未来の自分への投資となるPay It Forwardの概念の演習での具現化に工夫があること

### 教員紹介



■教育推進部 教授

山本 敏幸

Toshiyuki Yamamoto

2014年来、学内では関大・交渉学を授業科目に取り入れ、交渉学の科目を展開、学外では関大生、他大学生と社会人・企業人が協働でワークショップや研修をおこなっている。いい未来社会を築くための基盤となる永く続く信頼関係づくりのワークショップを通して、グローバル社会で通用するSDGsについて模索している。